

平成27年度事務事業評価シート						取組みコード	41321
区分	補助金・交付金		担当課	教育総務課	作成日	平成27年5月14日	
事業名	町小学校連合音楽会負担金(5年)		開始年度	不明	予算科目	9.2.3.7.1	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第4部 豊かな人間性を育む文化のまちづくり	章	第1章 生涯を通じて学ぶ体制づくり
節	第3節 小中学校教育の充実	基本施策	2 生きる力を育む教育の充実
取組みの基本方向		(1)教育基本方針に基づいた魅力ある学校づくりを推進します。	
根拠法令等	教育基本法 学習指導要領		
目的 (誰・何を対象に、何のために)	町立小学校5年生児童が一同に会し、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことで、生きる力の育成に資する。		
内容・方法 (何を行っているのか)	合唱や合奏などの音楽表現の発表及び鑑賞を提供している小学校長会に対して、負担金を支出している。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		平成21年度	平成28年度			
	学校生活を楽しいと感じる小学校5年生の割合		74.3% (平成20年度)	85.0%			
	学校生活を楽しいと感じる中学校2年生の割合		52.7% (平成20年度)	65.0%			
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		子どもたちが達成感を得ること					
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成24年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
「学校に行くのが楽しい」と感じる児童の割合	増	全国学力・学習状況調査での左の質問に対する肯定的な回答の割合	計画値		80.0	81.0	82.0
			実績値		87.8	89.8	
			達成度※自動計算		109.8	110.9	0.0
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		本事業は負担金の給付のみであるため、町の活動としては、申請書の受理、報告書の審査等だけであることから、活動指標の設定は行わない。					
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
			計画値				
			実績値				
			達成度※自動計算		計測不能	計測不能	計測不能

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

				(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000
年 度		基準年度(決算) (平成24年度)	平成25年度(決算)	平成26年度(決算見込)	平成27年度(予算)
(A) 事業費(円)		304,500	304,500	304,500	344,000
(B) 概算職員数(人)		0.010	0.010	0.010	0.010
(C) =(B) × (E) 人件費(円) ※自動計算		83,000	83,000	83,000	83,000
(D) =(A) +(C) 総事業費(円) ※自動計算		387,500	387,500	387,500	427,000
単位当たりコスト※自動計算		#DIV/0!	4,413.4	4,315.1	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源※自動計算		387,500	387,500	427,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において同類種の事業が実施されていない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である		
	町民の日常生活に必要不可欠な事業である		
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成26年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5 特記事項

平成24年度は全国学力・学習状況調査を実施していないことから、平成25年度と平成26年度の比較により評価を行った。

6 自己評価(担当課)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由	他校の同年代の児童と、音楽活動を通して交流する機会は貴重であり、維持すべきであるとする。					
今後の方向性	現状のまま引き続き事業を実施する。					

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	● 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり					

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	○ 現状維持	○ 拡充	○ 改善	○ 縮小	○ 再構築	○ 廃止
今後の方向性に係る意見等						

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	● 現状維持	○ 拡 充	○ 改 善	○ 縮 小	○ 再 構 築	○ 廃 止
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施する。					